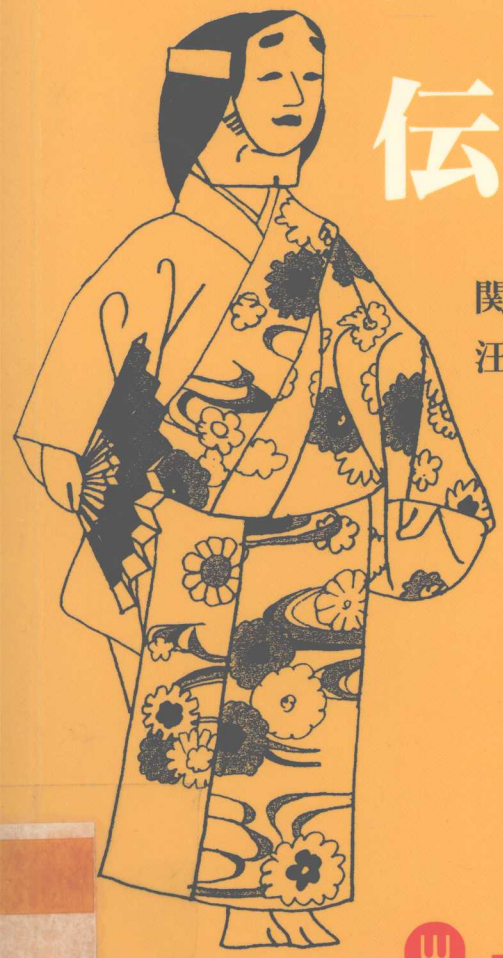
日本人的
传统文化与生活

日本人の
伝統文化と生活



関口伊都子
汪　玉　林　著

FOREIGN LANGUAGES PRESS

日本人の伝統文化と生活

関口伊都子　汪玉林　　著

外文出版社

图书在版编目（CIP）数据

日本人的传统文化与生活 / （日）关口伊都子，汪玉林著.

北京：外文出版社，2006

ISBN 7-119-02848-0

Ⅰ.日… Ⅱ.①关…②汪… Ⅲ.传统文化－简介－日本－日文

Ⅳ.G131.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2006）第 030080 号

外文出版社网址：
http://www.flp.com.cn
外文出版社电子信箱：
info@flp.com.cn
sales@flp.com.cn

日本人的传统文化与生活

日本人の伝統文化と生活

作　　者　関口伊都子（日）　汪玉林

责任编辑　刘承忠　王际洲

封面设计　姚　波

印刷监制　张国祥

出版发行　外文出版社

社　　址　北京市百万庄大街 24 号　　**邮政编码**　100037

电　　话　（010）68320541

印　　刷　三河市汇鑫印务有限公司

开　　本　16 开（787mm×1092mm）　　**字　　数**　120 千

印　　数　0001－1000 册　　**印　　张**　7.25

版　　次　2006 年第 1 版第 1 次印刷

装　　别　平

书　　号　ISBN 7-119-02848-0

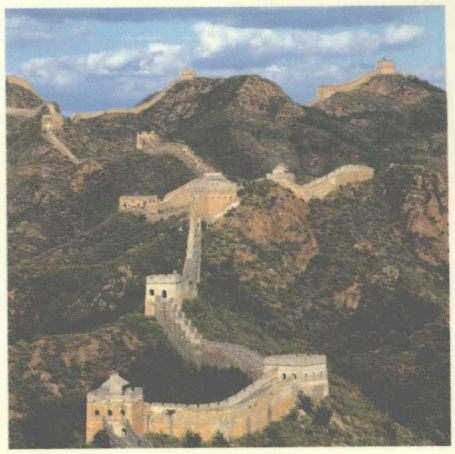
定　　价　66.00 元　　日元：1500 円

版权所有　侵权必究

関口伊都子

大東文化大学日本語学科助教授（表千家茶道教授）。オーストラリア国立大学アジア学部日本語学科にて日本語教育及び教材作成に従事した経験あり。現在、主に外国人留学生に対して「日本文化」を講義。

イラスト：赤勘兵衛



汪玉林
北京外国語大学
日本語学部教授

1993年4月—1995年3月
日本大東文化大学外国語学部
中国語学科客員教授

1994年8月
日本で初の石筆書作品展（小石で書を書く）を開き、石筆書家として知られる。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

前書き

言語を習得するには、その国の文化的背景を知ることが重要な要素となる。

本書では、日本文化を知る上で必要不可欠な内容のものを選び、それぞれについて紹介してみることにした。具体的な内容については目次を参照していただけば明らかであるが、たとえば、富士山、神社、祭り、正月、彼岸、盆、七五三、成人式、相撲、茶道などは、日本人の倫理感、宗教感を形成する精神文化の代表的なものであり、能、文楽、歌舞伎などは日本で育くまれた独特な伝統芸能である。また、畳、和服、日本料理は、日本人の伝統的な生活様式を代表するものであり、更に、花見、紅葉狩り、温泉などは典型的な行楽行事として日本人の生活に定着している。また本書にはあらゆる日本文化に関連性を持つものと考えられる比較的難解な家元制度も取り上げている。

その他、身近な事柄である住居に関することや農村・漁村の風物誌、あるいは民間信仰・迷信・俗信なども採用した。

各章の難解で説明を要するものについては注釈を施した。更に関係用語、年表、年中行事表を添付し、日本語学習者のテキストあるいは副読本として使用できるように考慮した。

著　者

序に代えて

このところ海外での日本語学習熱が高まっている。中国でも1980年代から日本語人口が急速に増加し、90年代に入ると開放政策を背景とした日中の交流進展という環境の中で、本格的な日本語ブームが到来した。日系企業の活発な中国進出に伴い、現在も日本語学習者が増え続けている。大学の日本語学科への入学志願者も多く、外国語の履習では英語に次いで、第二位の地位を保っているのが各大学の現状である。しかしその一方では、海外における教育機関の多くが、「教材不足」「施設・設備の不備」「日本社会や文化についての情報不足」等の諸問題を抱えていると言われている。

日本に来る留学生の数も増加する一方だ。自国である程度日本語を勉強したものもあれば、来日してはじめて日本語に接するものもおり、留学生達のレベルは千差万別である。必然的に日本語学校又は大学における日本語クラスでも教学上の問題を多く抱えている。中でも日本文化に対する基礎知識の欠落は難問の一つと言えるだろう。

ある言語をマスターするには、その言語を形成している文化を学ぶことが不可欠である。日本語を学ぶにはその背景にある日本の文化を無視することができない。

このたび、長く日本語教授に従事してこられた大東文化大学の関口伊都子先生と北京外国語大学の汪玉林先生が「日本人の伝統文化と生活」という本を共著でまとめられた。両先生の長年にわたる教学経験を生かして編まれた本書は、日本の文化を学びながら併せて日本語の向上を計れるように配慮されている。イラストも多く使われており、学習者に理解しやすい構成がその特色である。日本語を学ぼうという読者の適切な「道しるべ」となる好書と言えよう。

2006年3月

瀬戸口律子

目　次

前書き
序に代えて
一　富士山……1
二　神社・祭り……5
三　正月・彼岸・盆……10
四　お宮参り・七五三・成人式……19
五　相撲……22
六　畳……26
七　茶道……29
八　能楽……34
九　文楽……37
十　歌舞伎……40
十一　着物……44
十二　日本料理……47
十三　温泉……52
十四　花見・紅葉狩り……54
十五　家元制度……57
十六　民家……60
十七　民間信仰……63
十八　女人禁制……70
十九　漁村の生活……73
二十　婚姻……77
二十一　葬儀……81
二十二　先祖崇拝……85
二十三　動物供養……87
二十四　俗信・迷信……90
二十五　物売り……94
付録……97
1．国民の祝日　2．24節句・雑節・行事　3．桜名所　4．紅葉名所
5．日本百名山　6．温泉
年表……105
参考文献……109

一　富士山

静岡県と山梨県の県境いに聳え立つ富士山は標高 3776 メートルを誇る富士火山帯の主峰である。国内最高峰の美しい容姿を保つ山で、日本の象徴として国の内外に知られている。

「富士」の名称はアイヌ語①の「フチ」（火）に由来するという説もある。また表記のしかたも幾通りかあり、例えば「不尽」、「不二」、「富慈」などがある。富士を中心にその周辺は富士箱根伊豆国立公園に指定されており、河口湖、西湖、本栖湖、山中湖、精進湖の「富士五湖」が点在し、別荘地や観光地として賑わっている。

なお、富士山は現在も活火山に属している。文献には、約 3000 年前の縄文時代から平安時代にかけて活発な火山活動の記録がある。1083 年の噴火以降は小休止の時期に入り、1707 年に再び大噴火があった。それから現在まで活動が停止している状態である。

ところで、始めて富士登山を行ったのは聖徳太子②であるといわれ、9 世紀頃からは一般の人々も盛んに登るようになったと考えられている。近年、自動車道路も整備され、五合目までは車で登れるようになっている。その結果、富士登山はますます人気が集まっている。登山口には吉田口、御殿場口、須走口がある。

富士山は日本のシンボルとして昔から人々の間で畏敬の念をもって

崇められ、親しまれて来た。文学作品や絵画のテーマなどにも多く取り上げられ、中でも江戸時代の葛飾北斎③の「富嶽三十六景」は有名である。近代美術の巨匠である横山大観④や奥村土牛なども富士を好んで描いている。小説家の大宰治⑤の作品にも「富嶽百景」という短篇がある。更に、「富士」はあらゆる名称に用いられ、特に地名や駅名あるいは屋号などが全国に数多く存在している。「富士市」、「富士見市」、「富士見町」、「富士見台」、「富士見野」、「富士川」、「富士急ハイランド」、「富士見荘」、「不二家」などである。また「岩手富士」、「蝦夷富士」などのように、全国各地の山の名称にも「富士」が多く用いられている。

以上述べたように、「富士」は日本人にとって切っても切れない縁になると言っても決して過言ではない。

○「富士講」について

日本人の信仰心は、「お山信仰」がその原点であると考えられている。熊野山地を始めとして、各地に「霊山」として人々に崇められている山地が点在している。日本の象徴である富士山も、勿論霊山として、古くから信仰の対象となっていたのである。

ところで、「富士講」というのは、近世初期、長谷川角行が教義を完成させ、信者を募って富士登拝を行ったことにその端を発する。その際、先達（修験者）が霊験を問う信者たちを引率し、信者たちは白衣を着て鈴と金剛杖を持ち、「六根清浄、お山は晴天」などと唱えながら富士登拝に向かったのである。これは江戸時代盛んに行われていたが、参加できない信者たちは、ある場所に富士山の模型を設置して参拝したようである。関東地方には今でもその名残りとして、「富士塚」などの地名が残っている。

富士山・おもな地方富士

「富士」名	所在地	山名
利尻富士	北海道利尻島	利尻山
阿寒富士	北海道東部	雌阿寒岳の一峰
蝦夷富士	北海道南部	羊蹄山

渡島富士	北海道南部	駒ヶ岳
津軽富士	青森県	岩木山
南部（岩手）富士	岩手県	岩手山
出羽（秋田）富士	秋田・山形県	鳥海山
吾妻小富士	福島県	吾妻山の一峰
会津富士	福島県	磐梯山
下野富士	栃木県	男体山
榛名富士	群馬県	榛名山の中央火口丘
八丈富士	東京都八丈島	西山
上田富士	新潟県	飯士山
越後富士	新潟県	妙高山
信濃（有明）富士	長野県	有明山
信濃富士	長野県	黒姫山
高井富士	長野県	高社山
諏訪富士	長野県	蓼科山
近江富士	滋賀県	三上山
若狭・丹後富士	福井県・京都府	青葉山
紀州富士	和歌山県	竜門山
伯耆富士	鳥取県	大山
讃岐富士	香川県	飯野山
豊後富士	大分県	由布岳
薩摩富士	鹿児島県	開聞岳

注釈

①アイヌ語：アイヌ人の言語。アイヌ人は現在は主として北海道、サハリンに居住しており、独自の文化を継承している。関東以北の地名にはアイヌ語で名付けられたものも多い。

②聖徳太子（574-622）：用明天皇の皇子。推古天皇の摂政となり、十七条憲法を制定した。また、仏教を積極的に支持し、法隆寺の建立にも尽力した。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

③葛飾北斎（1760-1846）：江戸後期の浮世絵師。浮世絵以外にも伝統的な日本画や西洋画も学び、風景版画に新生面を開いた。

④横山大観（1868-1958）：近代日本画家。「朦朧派（もうろうは）」という新しい描写法を考え出した。

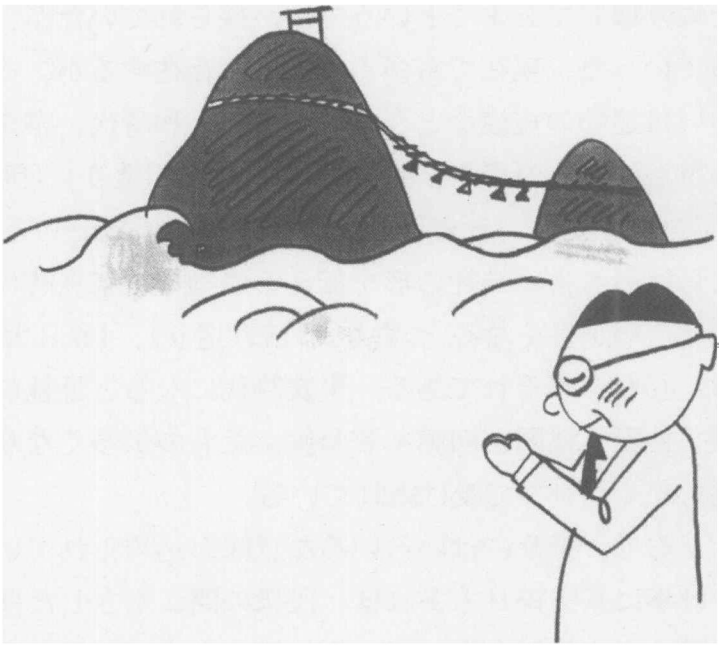
⑤大宰治（1900-1948）：小説家。代表作として「桜桃（おうとう）」、「斜陽（しゃよう）」、「人間失格（にんげんしっかく）」などがある。

［語句と漢字の読み］

富士箱根伊豆国立公園（ふじはこねいずこくりつこうえん）
河口湖（かわぐちこ）
西湖（さいこ）
本栖湖（もとすこ）
山中湖（やまなかこ）
精進湖（しょうじこ）
聖徳太子（しょうとくたいし）
葛飾北斎（かつしかほくさい）
富嶽三十六景（ふがくさんじゅうろっけい）
横山大観（よこやまたいかん）
奥村土牛（おくむらとぎゅう）
太宰治（だざいおさむ）
富嶽百景（ふがくひゃっけい）
岩手富士（いわてふじ）
蝦夷富士（えぞふじ）
冨士講（ふじこう）
お山信仰（おやましんこう）
霊山（れいざん）
長谷川角行（はせがわかくぎょう）
教義（きょうぎ）
信者（しんじゃ）
募る（つのる）
先達（せんだつ）
修験者（しゅげんじゃ）
霊験（れいけん）
引率（いんそつ）
白衣（はくい）
金剛杖（こんごうづえ）
六根清浄（ろっこんしょうじょう）
お山は晴天（おやまはせいてん）
唱える（となえる）
模型（もけい）
富士塚（ふじづか）
用明天皇（ようめいてんのう）
推古天皇（すいこてんのう）
摂政（せっしょう）
十七条憲法（じゅうしちじょうけんぽう）
法隆寺（ほうりゅうじ）
建立（こんりゅう）
浮世絵師（うきよえし）

二　神社・祭り

日本人の宗教観は、古来、神と人間との関係が非常に密接であったと考えられる。人間にとって、自然界ほど大きな存在はなかったに違いない。人間は常に自然界の森羅万象に畏敬の念を抱き、かつそれを恐れた。そこで、自然界のあらゆる物体に神が宿るという発想が生まれたものといえよう。神社の境内(けいだい)では勿論、それ以外の場所でもそのような光景を見ることが出来る。たとえば、よく古い大木や大きな岩石にしめ縄が結ばれていたり、あるいは滝の上の方を見上げると、両端の岩石にしめ縄が張られている。また、稲荷(いなり)神社のご神体が狐であることに代表されるように、動物もその対象としてよく使われている。そして、これらの物体にはすべて神が宿っているという意味が込められている。



「お稲荷さん」は、商売繁昌の神様としても広く知られている。人家の庭先に小さな赤い鳥居を設け、その奥に社を建てて祀られている。「天神様」は学問の神様として知られている。昔菅原(すがわらの)道真(みちざね)①という学問に長けた人物が存在し、その霊が祀られたことに由来して「菅原神社」とも呼ばれている。受験シーズンになると「合格祈願」とか「必勝祈願」などと書かれた絵馬が社に所狭しと掛けられる。

このように日本人の宗教観には、常に神と共に有るという意識が働いているように思われる。それが端的に表われているのが、氏神と氏子の関係であろう。

氏神というのはその地域に住む人びとの守り神で、人々はすべてその神の子、つまり氏子であるという発想である。「村の鎮守の神様の、今日はめでたいお祭り日、ドンドンヒャララドンヒャララ、ドンドンヒャララドンヒャララ、朝からきこえる笛太鼓」という童謡は昔から続いている村祭りの様子を生き生きと歌い上げている。

神社の起源について考えてみよう。原始時代には、自然界のすべての物に神が宿るという発想があり、山の頂上などが最も神聖な場所と考えられていた。そして人びとは、自らそのような場所に出向いて行って信仰を深めたのである。従って神の宿る場所としての神社を自分たちの生活圏に創造する必要はなかったのである。しかし、農耕生活が定着し、集落が形成されるようになると、神に対する豊作祈願、あるいは海辺での豊漁祈願や感謝の念を表す慣習が徐々に起こった。そこで、神を身近に招くという意味を込めた祭りが取り行われるようになったのである。はじめの頃は祭りのために仮設の神社を造り、それが終ると取り壊してしまうという方法が採られていたが、その後、恒久的なものに変っていった。現在でも多くの神社が存在するが、それぞれ屋根の形とか材料あるいは建物の規模などさまざまで、大和時代、奈良時代、平安時代などに造られたものがその基本となっている。「神明造り」（伊勢神宮）②、「大社造り」（出雲大社）③、「日吉造り」（日吉神社）④などが主なモデルとなっている。それらは最も古い神社の形を伝える建物で、奈良時代に入ると神仏混合の影響を受けた形が多くなる。つまり、「流れ造り」、（春日大社）⑤「八幡造り」（宇佐八幡）⑥などがそれである。平安時代になると神社のあるべき機能、すなわち本殿、神殿、楼門、回廊を兼ね備えたものが多くなり、以来、それほど大きな変化もなく今日まで受け継れている。

ところで、祭りにはいろいろな意味が込められている。国家の定める祭日や年中行事に基く祝日もあれば、民衆の間に根ざした種種の祭りもあり、それぞれに固有の背景が含まれている。祭日の中で正月元旦、春分の日、秋分の日、天皇誕生日等は皇室や社寺に関係の深い行事である。

春分の日、秋分の日は皇室では以前から春季皇霊祭、秋季皇霊祭と称し、一般的には春の彼岸、秋の彼岸と言っている。「彼岸」は仏教用語で墓参りなどをして祖先の霊をなぐさめる習しとなっている。一般的に「祭り」と称する行事はもとも

と神社との 関りが深く古来より行われてきた神への祈願及び感謝の意義を含むものが多いと考えられる。現在各地で行われている祭りで最も代表的なものは、夏祭りである。すなわち「氏神様のお祭り」である。7月頃になると、あちらこちらの市町村で「ワッショイ、ワツショイ」というにぎやかな掛け声が聞こえてくる。御輿を担いで町中を練り歩いたり、お囃子を打ち鳴らしながら山車を引いたりする光景も見られる。そして道の両側にはさまざまな縁日の出店が所狭しと並ぶのである。夏祭りとして広く知られているものには、京都の祇園祭り、葵祭り、九州の博多ドンタク祭り、東京の三社祭り、青森のねぶた祭りなどがあり、それぞれに独自の特色があって興味深い。

こうして日本人は古来より、神と祭りに深い関心を寄せてきたのである。

○神社の組織

宮司は神社の大、小を問わず各社に1名配属される。神官の位は次のように分類される。

直階
- 上位
- 中位
- 下位

明階
- 上位
- 中位
- 下位

権階
- 上位
- 中位
- 下位

正階
- 上位
- 中位
- 下位

衣服の色は上位から紫、赤黒、白などが使われる。また中には家紋入りのものもある。

規模の大きな神社で、神職に携わる人々の官称は、次の通りである（上位順）

宮司

権宮司
禰宜
権禰宜

注釈：

①菅原道真（845—903）
平安前期の学者、政治家。和歌や書にも優れる。

②伊勢神宮
三重県伊勢市にある神宮。内宮と外宮から成り、内宮の祭神は天照大神、外宮の祭神は豊受大神で、皇室の守り神となっている。

③出雲大社
島根県出雲市にある神社。大国主命が祀られている。縁結びの神として知られている。

④日吉神社
滋賀県大津市坂本にある神社。正面から見ると入母屋造り、後方の屋根は兜屋根となっているのが特徴。

⑤春日大社
奈良の東大寺の神宮寺。典型的な神仏混合の社殿として有名。

⑥宇佐八幡
大分県にある八幡宮。仏事における双 堂の形式を取り入れている。

［語句と漢字の読み］
自然界（しぜんかい）
森羅万象（しんらばんしょう）
畏敬の念（いけいのねん）
抱く（いだく）
宿る（やどる）
発想（はっそう）
滝（たき）
しめ縄（しめなわ）
稲荷神社（いなりじんじゃ）
ご神体（ごしんたい）
商売繁昌（しょうばいはんじょう）
鳥居（とりい）
天神（てんじん）
菅原道真（すがわらのみちざね）
長ける（たける）
氏神（うじがみ）

氏子（うじこ）
豊作祈願（ほうさくきがん）
豊漁（ほうりょう）
大和時代（やまとじだい）
奈良（なら）

平安（へいあん）
神明作り（しんめいづくり）
伊勢神宮（いせじんぐう）
大社作り（たいしゃづくり）
出雲大社（いずもたいしゃ）
日吉造り（ひよしづくり）
日吉神社（ひよしじんじゃ）
流れ作り（ながれづくり）
春日大社（かすがたいしゃ）
八幡作り（はちまんづくり）
宇佐八幡（うさはちまん）
本殿（ほんでん）
神殿（しんでん）
楼門（ろうもん）
回廊（かいろう）
元旦（がんたん）
春分（しゅんぶん）
秋分（しゅうぶん）
天皇誕生日（てんのうたんじょうび）
春季皇霊祭（しゅんきこうれいさい）
秋季皇霊祭（しゅうきこうれいさい）

墓参り（はかまいり）
行事（ぎょうじ）

御輿（みこし）
担ぐ（かつぐ）
囃子（はやし）
山車（だし）
縁日（えんにち）
出店（しゅってん）
祇園祭り（ぎおんまつり）
葵祭り（あおいまつり）
三社祭り（さんじゃまつり）
宮司（ぐうじ）
権宮司（ごんぐうじ）
禰宜（ねぎ）
権禰宜（ごんねぎ）
三重県（みえけん）
内宮（ないくう）
外宮（げくう）
天照大神（あまてらすおおみかみ）
豊受大神（とようけのおおみかみ）
大国主命（おおくにぬしのみこと）
縁結び（えんむすび）
入母屋（いりもや）
兜屋根（かぶとやね）
神仏混合（しんぶつこんごう）
大分県（おおいたけん）

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com